

# いそくじ 以速寺通信

2012/9 第119号

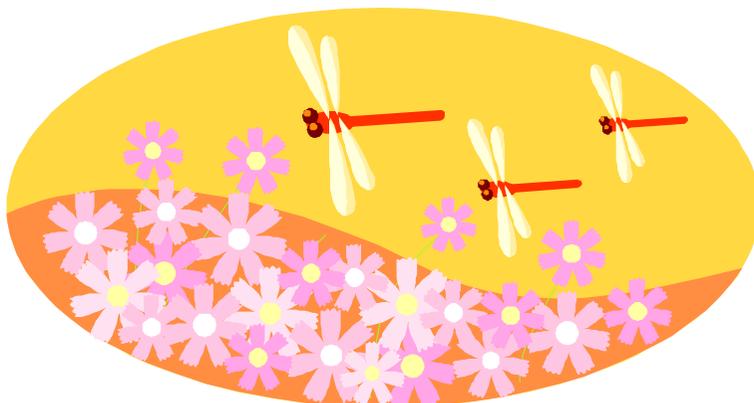
真宗大谷派三鏡山以速寺 発行

〒593-8312 堺市西区草部 79

TEL 072-275-0339

FAX 072-272-3020

## もう秋のお彼岸です



地獄は  
どこにもないのだ  
ない地獄を  
人間が作って  
そこに落ち込んで  
もがいている。

正親 含英 師

9月22日にお彼岸のお勤めをします (詳細裏面)

### 第三回夏季仏教講座(抄)その一 「浄土を願って生きる」2012/8/3

つなかりの回復

大谷大学教授 一栗 真 師

ただいま、紹介にあずかりました。一栗と申します。日頃は、京都にありますが大谷大学で学生たちと一緒に勉強させていただいております。

今日は、浄土を願って生きるというテーマについて変わって題を出させていただきました。もうちょっと補えば、浄土を願ってこの世を生きたいという思いであります。

なぜこんな題にしたかといっています。これ浄土真宗という限り、浄土というところが教えるの中心であるはずなんです。口頭なかなか遠くへなしているのになにかと思ってしまう。

ややもすると浄土というので、死んだ後に行くところだと思っておられる方もかなり多いですね。

でも親鸞聖人は浄土を願ってこの世を生きた方でもあります。そのことを今回確かめることができればと思います。こんな題をわざわざ付けさせていただきます。

サブテーマとして、繋がりのお復しました。ここには浄土を願うところに私たちが忘れていた繋がりがあるために見えてくる。あるいはそういう繋がりが開けてくるというのを私を感じておるからですね。

さて、浄土が真宗である。これが浄土真宗の4文字のお言葉の要の意味ですね。今は、浄土真宗という宗派の名前とつながりになっておられます。もちろんそれでも間違いではありません。



しかし親鸞聖人がおっしゃりたいのは、浄土が真宗ですよ。浄土がまことの拠り所ですよ。という私たちが呼びかけです。反対に言いますと、いろんなことを大事に生きておられるかも知れないけれど、それは真宗ですか。という問いかけなわけですね。

「浄」という字は、うかんむりに示すという字が書いてあります。うかんむりという字のは家をあらわすのだというのです。

その家が何を伴って生きていくか、何を大事に生きていくかというのがこの「浄」という字であります。ですから、その家の拠り所、その家が何を中心にしているのかというのです。

もうちょっと遡りますと、この「浄」という大和言葉は、物事の中心をあらわすことですね。体であれば胸、心。建物であれば棟木(ムナギ)が上がっています。もちろん漢字は違いますが、けれども、「ムネ」という言葉は物事の中心をあらわすのです。

ですから、浄土真宗という場合の真宗とは、その家が何を中心に生きているか、何を仰いで生きているか。つまり生きていく時の中心。これをあらわすのがこの宗という字なんです。

ただやっかいなのは、日頃私たちが大事にしておることが、本当に「ムネ」に値するのかわかりませんと、本当でないことを拠り所、中心にしてしまっていることが起きってしまうのです。

ですから、親鸞聖人は真宗をあきらかにする時には、必ず仮のものと偽物と区別しながら、真宗を語られるのです。

しゅうぞくしんらんしゅうじに  
宗祖親鸞聖人物語二十四

—法悦の口々—



「坊様、もうちよつと話を聞かせてくだらうかな。」

「婆様は、私よりずっと法然上人のお話を聞いておるではないか。」

「いや、もうちよつと。わしゃ、坊様の飾りのない話が大好きなんじゃ。」

長い苦悶の時期を歩んだ親鸞聖人ととて、吉水の草庵での生活は「ここに道あり」と人生の闇が晴れていく法悦の口々であった。それはまた、法然上人からお念仏の教えをきかせていただくだけでなく、それを多くの人と分かち合い、確かめ合う場でもあった。

「お坊様、ちよつと聞きたいことがあるんじゃが。」いつもの老女とは別の老女が思い切ったように、声を上げた。

「私は、お山から来た、えらいお坊様から随分とお話を聞かせていただいておるんじゃ。で、そのお坊様から女人の身は往生の障りになると聞いたんじゃ

が、ほんとつかえ。」

「ふむ。女人の身じゃからか?」

「仏様はどうおっしゃってらるんじ

や。お山が女人禁制なのは、むしろ女人の身が賤しいからと聞いておる。やはりむしろ賤しき女人の身は、地獄に落ちるしかないのかえ。」

「ぶつふあふあふあつ。」

「お坊様何がおかしいのじゃ。」

「いや悪い悪い。昔のことを少し思い出しての。いや、本当に申し訳ない。」

居住まいを正した親鸞聖人が静かに語りだした。

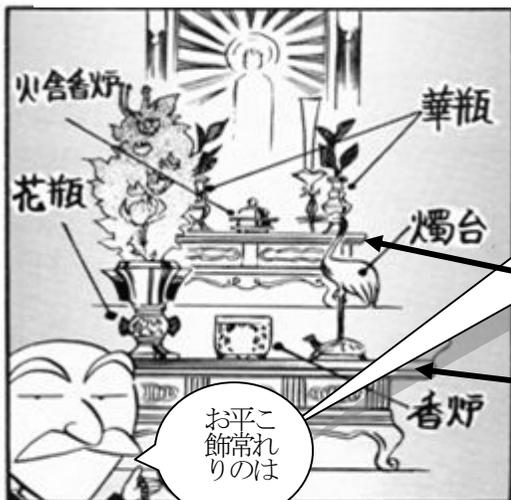
「婆様、安心してくだされ。阿弥陀様に救われる道に男女貴賤の隔てはない。

私がお山におったころ、同じことを女人に尋ねられてな、あげくの果てに山を飛び鳥に、駆け回る獣に、雌はいないのかと迫られて困ったことがあるのじゃ。そして、私は法然上人に教えていただいた。『貴賤はもとより男女に何の違いがある。共に凡夫ぞ。良いか、決して我が身を厭つではないぞ、弥陀の本願の救いには何の条件もいらぬ』とな。

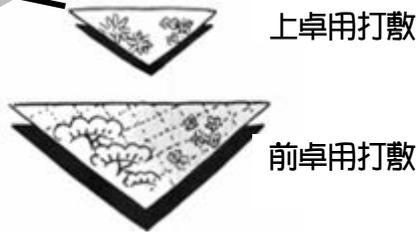
婆様、共に念仏もつこうぞ。」

堂内にお念仏の音が広がって行った。

参考 平常のお飾りです↓



お彼岸には、お内仏をよく掃除し、平常のお飾りに打敷うちしきを掛け、小餅などをお供えしましょう。



お彼岸のお飾り

お平こ飾飾常常れれののは



しゅうきひがんえ

## 秋季彼岸会のご案内



● 9月22日 午後7時30分から 法話 住職

\* 本堂収骨を内陣へ移動してお勤め(読経)します

彼岸会はお中日の22日ですが、お彼岸は9月19日から25日までとなります。本堂はいつでも開けております。どうぞご自由に参拝ください。

Qお彼岸って何？

A 彼岸とは、この岸(日ごろの思い)に対する言葉で、かの岸(向う岸)つまり、仏様の世界、お浄土を意味します。

Qどうして春と秋にお勤めするの？

A お経に、お浄土は西にあると書いてあります。そこで、太陽が真西に沈む、春分の日と秋分の日を中心として1週間をお彼岸とします。

Qお浄土は本当に西にあるの？

A もちろん、実際の西にお浄土があるわけではありません。しかし、沈む太陽がもたらす安堵感は、我々の心の奥底に「全てのもの、ともに生きたい」という願いがあることを教えてくれるのではないのでしょうか。

また、落日は人生に終わりあることも教えてくれます。いつか死ぬ身であることを思うとき、我々は生きる意味を問わずにいられないのではないのでしょうか。

ほうおんこう

## 報恩講の御案内

親鸞聖人の毎年の法要を勤めます。

● 11月2日(金) 午後2時から お勤め 法話

午後7時から ごでんしょうはいどく  
御伝鈔拝読法話

3日(土) 午後2時から お勤め 法話

報恩講法話の講師は大阪市本照寺前住職沖野頼信師です



編集後記

まだまだ暑い日が続きますが、すでに夏休みも終わり、季節が移ろいでいきます。年齢と共に時間の過ぎるのが早くなるということを随分と実感するようになってきました。

さて、今年はオリンピックの夏でもありました。日本では深夜になりますから、次の日を考えてなるべく見ないようにしていましたが、それでも何度が夜更かしをしてしまいました。それだけでなく、気が付くとテレビに向かって声まで出します。選手の一途に頑張っている姿をみると、応援せずにはいられないのです。

そして会ったこともない選手の喜びが、そして悔しさが、あたかも自分のことのように感じられました。それは日本選手だけに限ったことでもありません。

思えば不思議なことです。私とはほとんど関係がなく、損得勘定も働かない人間をテレビの前で応援し、その一挙手一投足から感動と力をもらうのですから。また選手は、インタビューの中で、日本で応援している人にも支えられていると語ります。

どうも私たちは、支え、支えられることが大好きなようです。大げさないうと、支え、支えられるという関係性の中で、自分が「こ」に生きていくということを確認しているような気さえてきます。

住職 山雄電磨